

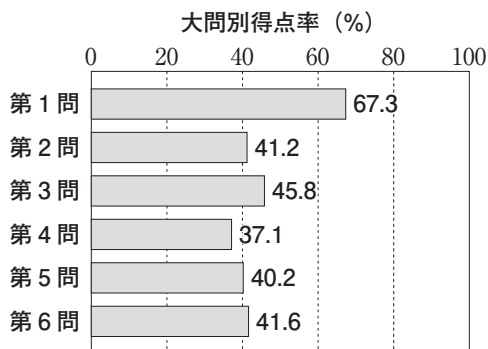
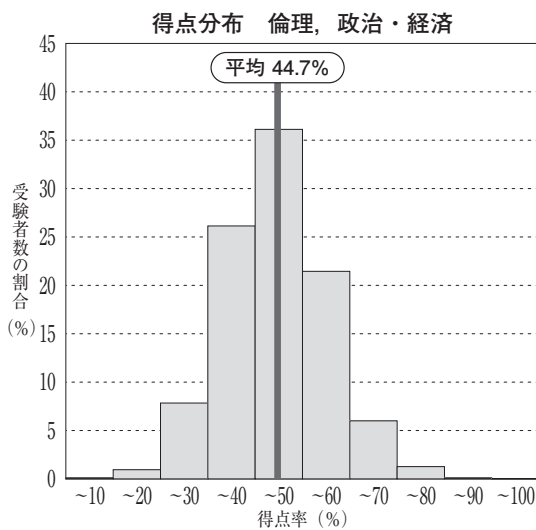
倫理, 政治・経済

できなかった設問をよく確認し, 今後の学習に活かそう。

I. 全体講評

6月実施の「全国統一高校生テスト 倫理, 政治・経済」の平均点は, 44.7点であった。

全体としては倫理分野の方がよい出来であったが, これは倫理分野には文章や資料の読解問題が含まれていたことが関係しているであろう(知識のない未習者であっても得点できる可能性がある)。消去法のきかない7択問題などでは正答率が10%を割り込むものも散見され, 学習状況としては, まだまだほぼスタート地点というところであろう。これから計画的に学習を進めていってもらいたい。



II. 大問別分析

第1問 青年期分野・現代社会分野

資料読解問題のため, 高い得点率が出た。

得点率は67.3%と, 全大問中で群を抜いて高かった。資料読解問題が2題含まれるなど, 平易な問題が多かったからであろう。一方で, 現代思想とヒューマニズムについての思想内容が問われた問2 [2]は, 正答率27.4%と, 4人に1人ほどしか正答できなかった。

第2問 源流思想・日本思想分野

未習者が多い分野であり, 8択問題などに苦戦した受験者が多い。

得点率は41.2%と, 倫理分野のなかでは最も低かった。日本思想分野はまだ学習していない受験者も多かったと思われる。特に正誤の8択組合せが問われた問2 [7]や, 近代思想が問われた問5 [10], 民俗学に関する問6 [11]は, 正答率は2割前後にとどまった。

第3問 源流思想・西洋近現代思想分野

知識の不要な問題以外にはほとんど対応できていなかった。

得点率は45.8%と, 第2問よりはよかったが, 問3 [15]の文章読解問題と問6 [18]の趣旨読解問題に助けられた面が大きく, 問2 [14], 問4 [16], 問5 [17]などは2割前後の正答率にとどまった。知識の問われる設問にはほとんど対応できなかったと言える。

第4問 戦後の国際関係

正答率が10%を割り込む設問も見られるなど, 不出来であった。

大問としての得点率は37.1%と, 全大問中で最も低かった。なかでも, 包括的核実験禁止条約について問われた問6 [24]は, 正答率7.8%と, 10人に1人も正答できなかった。三つの短文すべてを正誤判定しなければならないこの形式は, 本番でも出題

されているので、慣れていってもらいたい。国際政治については未習者が圧倒的に多かったとみられる。

第5問 国際通貨体制

未習者が大多数だったと見られる。

大問としての得点率は40.2%と、ふるわなかった。ニューディール政策を知っていればよい問1 [27]は多くの受験者が正答できたが、三つの短文すべてを正誤判定する形式の問5 [31]は、正答率が6.7%となった。未習者にとってこの形式の設問は厳しかったであろう。

第6問 国民所得と景気循環

標準的な4択問題でありながら、正答率が5.5%という設問も見られた。

大問としての得点率は41.6%と、低いながらも政経分野では最も高かった。問1 [32]～問4 [35]は4割前後の正答率で踏みとどまった。ただ問5 [36]は、基礎事項についての4択問題でありながら、正答率がわずか5.5%と、極めて低かった。多くの受験者に経済分野の基礎知識が欠けていたことが分かる。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆模試の結果をよく分析しよう。

模擬試験はあくまで学習の到達度を確認するための手段であるから、その結果に一喜一憂するのは本末転倒である。悪い結果をいたずらに嘆く必要はないし、かりによい結果であったとしても、過度に喜ぶべきではない。正答できなかった設問については、自分の何が足りなかったかを分析する素材とすべきであり、正答できた設問についても、理解が正しかったかどうかを確認し、学習方針の点検などをするための素材として利用すべきである。しかし現実には、多くの受験者は、せっかく集中して模擬試験を受けても、満足に解説すら読んでいない。これは、せっかく種を撒いたのに収穫するのを忘れてしまったようなもので、じつにもったいないことである。模試は受けたあとに勝負が始まるものと心得ておいてほしい。

◆次回の模試に向けて。

これまでの学習アドバイスでも強調してきたことだが、一刻も早く全範囲に目を通そう。分からない箇所はそのままでもいいし、極端な話、教科書のページをめくるだけでもいい。「倫理, 政治・経済」という科目で何を学習しなければならないのかということをおお雑把につかみ、学習の見通しを立てよう。学習がある程度後回しになってしまうことは科目の特性上やむをえないが、同じように後回しにするにしても、科目の大まかな内容と特性、それに自分の客観的な実力を把握したうえで当面他教科に力を注ぐことと、ただ漫然と後回しにすることはまるで意味が違う。自分なりのビジョンをもって学習を進めよう。次回の「第3回8月センター試験本番レベル模試」は夏の学習成果を試す絶好の機会である。全範囲の概要を把握し、これまでの模試を復習して臨みたい。